

順天堂医院 ニュース 2024 NO.87

2024年度を迎えて — 院長報告 —

2024年4月から院長に就任しました桑鶴でございます。新病院幹部体制は、私に加え、外科系副院長として坂本、鈴木両先生、内科系副院長として山路先生、院長補佐として永原、内藤両先生の6名となります。各部署の協力を得て病院一丸となって運営に取り組む所存です。

新型コロナウイルス感染症と共存の時代に入り、種々の感染症に気を付けながら大学附属病院として、また特定機能病院として先進医療に取り組んでいく所存です。また、従来から取り組んでいる患者サービス向上については引き続き進めてまいります。特に外来患者さんの待ち時間短縮については、診療、検査、お薬、会計等の各部署で改善に取り組んでまいりました。待ち時間が短縮した部署もありますが、まだ病院全体で十分に改善されたとはいえ、運用の改善やデジタル化の推進により、一層の短縮を図っていきます。

日々の診療の中で最も気を付けていることは医療安全です。順天堂は佐倉に居を構えた幕末～明治初期の頃から患者さんに安全で心の通った医療を提供することに注力し、それが現在に受け継がれています。

医師の働き方改革が本年4月から本格的に開始されます。患者サービスや医療安全を担保しながら医師のみならず職員全員の働き方改革を行っていく予定です。どうぞよろしくお願い申し上げます。



順天堂大学医学部附属順天堂医院
院長 桑鶴 良平

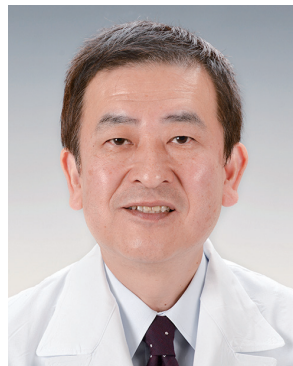


副院長ご挨拶

桑鶴院長のもと副院長を務めさせていただいている大腸・肛門外科の坂本一博です。手術部業務、医療安全、診療機械（外科系）などを担当しています。

順天堂医院は、特定機能病院として、高度な医療を安全に提供できるように、全職員で取り組んでいます。当院は第三者が医療を中立的な立場で評価する2つの認証を取得しています。一つは国内の病院を対象とした『病院機能評価』で5年毎の審査があり、昨年5回目の審査を受けました。もう一つは、国際基準の医療の質および患者さんの安全を担保した医療施設に対する『JCI (Joint Commission International) 国際認証』です。JCI認証は3年毎の審査があり、今年4回目の審査を受ける予定です。

当院が医療水準を高め、多職種が一丸となり、高難度手術や新規医療を含めた数多くの医療を安全に行ってきたことを、第三者が評価していることとなります。今後とも安全で安心できる医療を患者さんに提供できるように、努力をしていきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。



副院長 坂本 一博

2022年4月より副院長をいたしております膠原病・リウマチ内科の山路健です。これまで4年間、高橋和久院長の下、院長補佐、副院長として取り組んで参りました医療連携をはじめ医療サービス、広報、難病医療などを桑鶴良平新院長の下、引き続き、担当いたします。かかりつけの医療機関からご紹介いただいた際には円滑に適切な担当医の診療が受けられ、診療後には速やかにかかりつけの先生にご報告が出来るようにしております。社会福祉制度や医療費、就労など療養生活における様々なご心配事やお悩みを解決するお手伝いもしています。そして、最新医療に関するトピックスや療養生活に役立つ有益な情報を解りやすく皆さんにお届けするにもしています。

当院ではコロナ禍においても安全に安心して通院いただけるようウォークスルー検査、メディカル・コンシェルジュ、お薬配送サービス、医療費あと払いクレジットサービスなどといった様々な取り組みをして参りました。また、診察や検査の予約確認、外来診察の順番・進行状況、お薬の準備状況がスマートフォンで分かる通院支援アプリもご利用いただいて参りましたが、2023年1月から通院支援アプリをリニューアルして電子診察券や処方内容、検査結果が確認出来るようになりました。また、2024年1月からは外来の予約変更申請が出来る新しい機能が加わり、さらに便利になりましたので是非、ご活用ください。

高度で安全、安心な医療を提供するのみではなく、外来診療から入院加療、そして退院後の療養生活に至るまで、様々な状況において患者さんやご家族の方々が安心して快適な療養生活を送っていただけるようにお役に立てれば嬉しいです。どうぞよろしくお願い申し上げます。



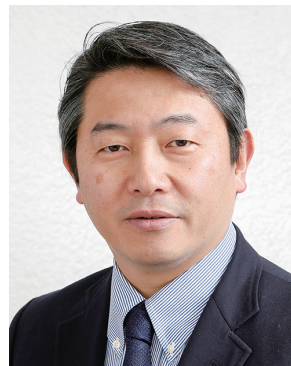
副院長 山路 健

皆様、こんにちは。

私は鈴木健司と申します。この度、順天堂医院の副院長に就任いたしました。院長である桑鶴良平先生をサポートしつつ、地域の皆様をはじめとする全国の患者さんに信頼される医療サービスの提供に全力で取り組んでまいりますことを誓います。

順天堂医院は、長年にわたり国民の健康と福祉に貢献してまいりました。私たちは患者さんの安全と健康を最優先に考え、質の高い医療と温かい対応を提供しています。

今世紀に入り、内科、外科を問わず、いままでには経験しなかったほどのスピードで医療が進歩しています。10年前には全く手も足も出なかった病にも治療が可能になり、治癒を望めるといった分野も少なくありません。どんなに高度な専門性の高い治療であっても古くから大事にされている「惻隱の情」といったものをもとても大事にするのが順天堂医院の特徴です。一般的なご病状から、ほかの医療機関で治療不能と言われたようなご病状まで幅広く対応しております。どうぞ順天堂の門を叩いていただきたく存じます。皆様とそのご家族のお幸せを心よりお祈り申し上げます。



副院長 鈴木 健司

院長補佐ご挨拶

2024年4月より院長補佐を拝命いたしました消化器内科の永原章仁です。桑鶴良平院長のもと、診療機械、医療情報、超音波センター、先進医療、医療倫理などを担当いたします。

順天堂医院では、常に最新の医療機器の導入に計画的に取り組んでいます。特に診療の基幹である電子カルテに代表される医療情報は日々改善が必要であり、これらの情報に接する医療スタッフには高い倫理観が求められます。また同時に、多くの診療科で大学病院として世界を牽引する先進医療を実践しています。それぞれの取り組みは別々では十分に機能せず、統合されて初めて、患者さんとそのご家族に高度かつ安全安心な医療を提供できると思料致します。

順天堂の理念である「不断前進」を念頭に、今後ともより良い医療を目指し真摯に取り組んで参る所存です。どうぞよろしくご願ひ申し上げます。

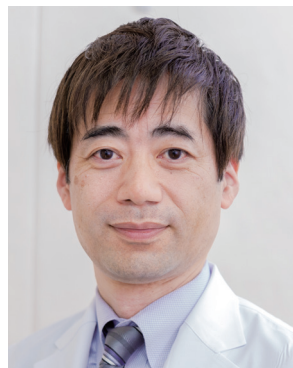


院長補佐 永原 章仁

院長補佐ご挨拶

2024年4月から院長補佐を務めます総合診療科の内藤です。総合診療科では原因不明の発熱や体重減少など、幅広く診療していますのでお気軽にご相談ください。新型コロナウイルス感染症を始めとした感染症の診療や、肺炎球菌や带状疱疹などのワクチン接種も行っています。

6月には診療報酬の改定があるため、医療保険室長として適切な医療費の請求が行えるよう準備を進めています。順天堂医院は教育機関でもあるため、臨床研修センター長として、病気の方の気持ちに寄り添い適切な診療を行える医師を育てていきます。また、病院職員の健康管理の責任者としても、皆様が安心して働き、受診できるよう職員の体調管理に努めます。薬剤部、臨床検査部とも連携を取り、チームとしての順天堂医院での診療が円滑に行えるよう注力いたします。どうぞよろしく願いいたします。



院長補佐 内藤 俊夫



この度、2023年12月1日付で皮膚科学講座主任教授に就任いたしました。皮膚科では内科的な疾患から外科的な疾患まで幅広く診療を行っております。スタッフ各自が得意分野を持ち専門外来を展開しております。特に、アトピー性皮膚炎、乾癬、脱毛症、白斑といった炎症性皮膚疾患、薬疹、自己免疫性水疱症、膠原病、皮膚悪性腫瘍全般、遺伝性皮膚疾患に対応し、きめ細やかな医療を心がけております。

私自身は乾癬、円形脱毛症など炎症性皮膚疾患を専門として皮膚科研究を積んでまいりました。炎症性皮膚疾患は比較的若年で発症し、命を直接脅かすことはないものの、痒みや痛み、外観の問題が生涯続き、社会的生活を著しく阻害する、“Life-ruining disease（人生を台無しにする病気）”と認識されています。これらの皮膚疾患では、近年特に重症な患者さんに対して新薬の登場が相次ぎ、治療戦略が急速な勢いで変化しています。その中で、常にアップデートされた情報を提供し、それぞれの患者さんの状況に合った長期的視野に基づく治療を行えるよう、日々精進しております。

皮膚科では、患者さんのアクセスの良さを意識し、平日午前午後、土曜日午前に初診外来を行っております。また、多くの医療機関と密接な連携を図っております。常に患者さんに安心をもたらせるように努めてまいる所存です。よろしくご厚意申し上げます。



皮膚科
渡邊 玲

このたび2023年12月1日付で順天堂大学医学部脳神経外科学講座の教授に就任いたしました。

私は2002年に米国ペンシルベニア大学で脳深部刺激術（DBS）を習得しました。パーキンソン病に対するDBSの劇的な効果に感銘を受け、これをライフワークにしたいと思いました。帰国後は母校の名古屋市立大学でDBS手術を行っておりましたところ、順天堂大学脳神経内科の服部教授から「世界に誇れるパーキンソン病センターの設立を目標としている。順天堂に来てDBSをやらないか。」とのお誘いを受けました。順天堂がパーキンソン病の臨床・研究における本邦トップであることは承知しておりましたので大変光栄に思い、2012年に寄付講座（運動障害疾患病態研究・治療講座）の専任教員として順天堂に赴任して参りました。この講座はパーキンソン病をはじめとする運動障害疾患に対して集学的な治療・研究・教育を行うこと目的として設立され、実際に順天堂では内科、外科といった診療科の枠を超えたチーム体制でDBS治療を行っています。この10年間は、順天堂の高い水準の中で、本邦でも圧倒的多数の手術を行わせていただきました。DBSは脳外科領域においてはまだまだマイナーな分野ですが、既に欧米では精神疾患やアルツハイマー病の治療などにも応用されておりさらなる発展が期待されます。今後も患者さんのために尽力していきたいと考えていますのでお気軽にご相談ください。



脳神経外科
梅村 淳

新任教授紹介

総合診療科

この度、2024年1月1日付で総合診療科学講座の教授を拝命しました。

私は2002年に自治医科大学医学部を卒業後、故郷宮崎県で9年間総合診療医として地域医療に従事しました。地域住民や行政関係者と一丸となり、診療とともに予防医学研究を進めて参りました。その成果が国際的に認められ、2012年から2020年にかけては、アメリカのシカゴ大学とノースウエスタン大学で研究員、デューク大学で准教授として、ビッグデータを駆使したデータサイエンティストとして予防医学の研究をさらに深める機会を得ました。

総合診療医の役割は、病気を診断し治療する上で、患者さん一人ひとりの身体的、精神的、社会的な健康を総合的に捉え、全人的な医療を提供することだと考えています。その過程で、データサイエンティストの視点は重要な役割を果たすと考えております。データサイエンスは、データに基づいた分析、考察、そして実装を行う科学ですが、数字に表されたデータの背後には、生成過程で見落とされがちな、しかし極めて重要な本質が潜んでいます。このようなデータの起源や背景、それを生み出した人々の「ヒストリー」を深く理解することが、データ駆動型研究におけるイノベーションの鍵であり、そこには全人的視点が必要不可欠であると考えています。

データサイエンスと総合診療科の融合により、より人間中心のアプローチを取り入れ、革新的なアイデアと熱意をもって、地域医療の質の向上と予防医学の発展に寄与できるよう、尽力して参ります。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。



総合診療科
矢野 裕一郎

新任教授紹介

乳腺科

このたび2024年3月1日付で順天堂大学医学部乳腺腫瘍学講座の主任教授に就任いたしました。私たちの診療科では主に乳がんの診断、治療に携わっています。乳がんは、現在日本人女性のがんにおける罹患数第1位の疾患であり、日本人女性の9人に1人が生涯乳がん罹患すると言われております。私が医者になった20数年前は20人に1人くらいの割合でしたが、日本の乳がん罹患数は年々増加の一途をたどっています。また、欧米と比較して日本人の乳がんは比較的若い世代にもピークがあることがわかっています。そういった中で私たちは乳がんを手術や薬物で治療を行っている診療科です。私たちの診療科は手術（乳腺外科）と薬物療法（乳腺腫瘍内科）の両方のエキスパートが在籍しているという日本でも数少ない診療科です。

乳がんの領域は他の様々ながんに比べOncology（腫瘍学）という概念では最先端の領域であり、新しい薬剤もどんどんと登場しています。当科ではそのような新しい薬剤の臨床試験にも数多く参加しています。また手術治療に関しては手術の方法や脇のリンパ節の検査などは縮小傾向に進んでいますが、形成外科と協力し乳房再建も積極的に行っています。また、遺伝子診断をはじめとした様々な治療のニーズが増えてくる中、それに応えるべく様々な診療科や部署と連携をして、チーム医療に力を入れています。進化する治療に対して、様々な角度から患者さんの満足のいく医療を提供することを心がけています。



乳腺科
九富 五郎



臨床検査技師は顕微鏡で何を観察しているの？ ～血小板の働きとその形について～

血小板の役割

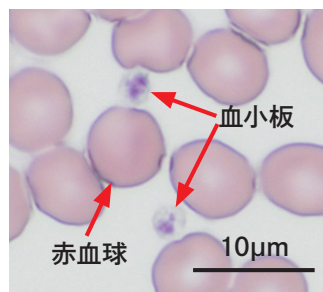
私たちが怪我で出血してもしばらくすると血は止まります。これは、血小板という細胞が深く関与しています。

血小板は、血管が傷ついて出てきた膠原線維（コラーゲン）を察知して、速やかに傷口に集まります。集まった血小板は、さらに多くの血小板を集めるための成分を出します。これにより、血小板が血管の傷口に集まって、血液が血管の外に漏れ出ないように蓋をします（一次止血）。さらに、血管を固めるためのたんぱく質（フィブリン）も加わり、より頑丈な蓋をつくれます（二次止血）。

血小板の形と数

血小板は、赤血球よりも小さい細胞で、直径が約2～4 μmです。細胞を特殊な染色液で染めて観察すると、細胞質は灰色から淡青色に染まり、細胞質内にある顆粒成分は赤紫色に染まります（右図）。

血液1 μLあたり約15万～35万個の血小板が存在します。



図：顕微鏡でみた血液細胞

血小板検査で分かること

血小板は、血算と呼ばれる検査で数と形を計測します。一般的に数が少なくなると血液が止まりづらくなり、出血傾向がみられます。また、血小板の数は十分にあって、形や機能に異常がある場合も出血傾向がみられます。逆に、血小板の数が多くなり過ぎると、血液の粘度が上がり血液の流れが悪くなることで血栓（血のかたまり）ができやすくなります。

臨床検査技師は、血小板の数だけでなく、顕微鏡で見える大きさや形に異常がないかを確認し、診断につながる情報を診療に提供しています。

栄養部ニュース



摂食・嚥下障害

食べ物をうまく咀嚼したり飲み込んだりできないことを摂食・嚥下障害といいます。

原因は脳血管疾患等の病気によるもの、加齢による筋力低下などが挙げられます。誤嚥により食物や口内の細菌が気道に入ると誤嚥性肺炎を引き起こし、重症化すると命に関わることもあります。

食事が減り脱水や低栄養状態を起こさないよう、やわらかく、付着性・凝集性のない食品を選んで食べるようにしましょう。水分にはとろみを付けることも必要な場合があります。食べることが疲れてしまわないよう少量で栄養価の高い食品を選ぶこともおすすめです。

食べる姿勢はまっすぐにし、顎は下に引くようにしましょう。また口腔ケアで口の中の衛生状態を保つことも肺炎の発症率低下へ繋がります。





肝腫瘍（特に肝細胞がん）に対する選択的肝動脈化学塞栓術

肝臓にできるがんのなかで最も頻度の高い肝細胞がんに対する血管造影装置を用いた治療方法について紹介します。

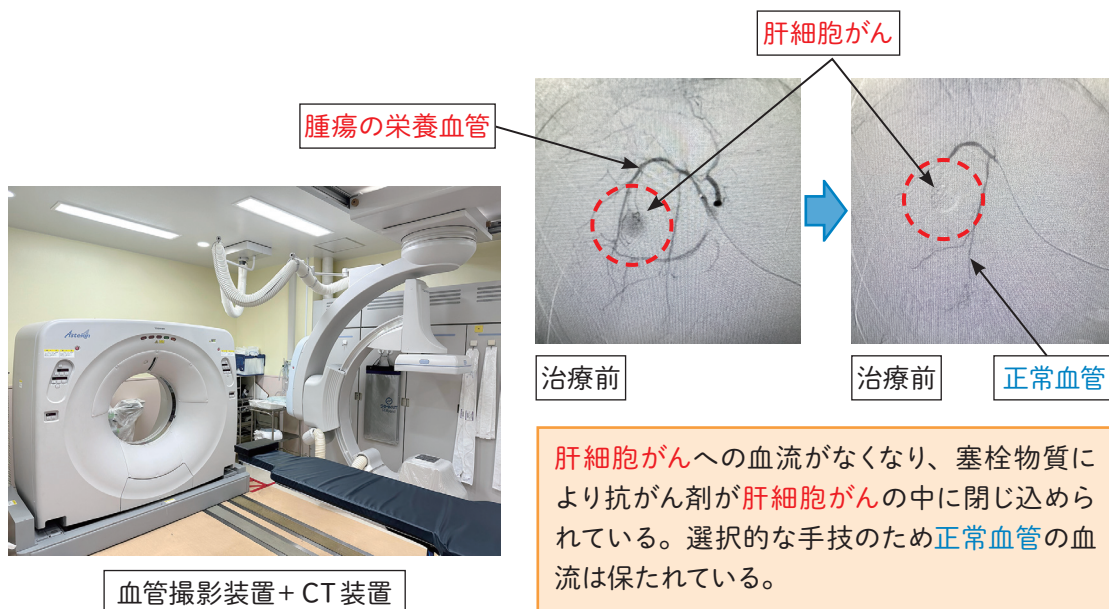
肝細胞がんは肝臓の内部の血管から栄養を受けて大きくなっていきます。

足の鼠径部の太い血管（動脈）より、細い管（カテーテル）を入れてがん細胞に栄養を与えている血管の血流を止めることで、がんを小さくしたり、死滅させる事ができます。

その方法を肝動脈化学塞栓術（TACE: Transcatheter Arterial Chemo-Embolization）と言います。

この治療法を用いることで、通常の肝臓の細胞のダメージを抑えて、肝臓にできたがんに対して抗がん剤を入れたり、血管を止める物質（塞栓物質）を入れたりすることで、肝臓にできたがんを治療します。通常の肝細胞は門脈から約80%、肝動脈から約20%の栄養を受けていますが、肝細胞がんは肝動脈からほぼ100%の栄養を受けているため、肝動脈化学塞栓術により虚血・壊死させる治療ができます。

順天堂医院では血管造影装置と一緒にCT装置を用いる事で、3次元で病変部位をとらえ、治療の精度を上げています。またスタッフも放射線カテーテル治療専門医、血管専門診療放射線技師などがチームを組み、優れた治療効果を実現しています。





術前外来ってなにをするところ？

手術は患者さんにとって大きなライフイベントです。しかし医療の発展とともに入院日数は短くなり、今では入院の翌日には手術という方がほとんどになっています。そのため、手術が決まって入院するまでの心とからだの準備はとても大切です。術前外来では、そのような患者さんやご家族が抱かれる不安や心配事を解決し、安心して手術を受けていただくために医師、看護師、薬剤師、歯科医師、歯科衛生士がチームとなってサポートをしています。

具体的な受診時の流れは、

- 麻酔の実際の様子、注意点に関する動画（DVD またはご自身のスマホなど）の視聴
- 薬剤師によるおくすり手帳の確認
- 歯科医師・歯科衛生士による歯科診察、麻酔前の歯の並びやぐらぐらする歯の確認
- 麻酔科医師による診察と手術の時の麻酔に関する説明、同意取得
- 看護師による術前の問診や体温、血圧など健康状態の確認、禁煙やお化粧品・マニキュアの除去など、手術を受けるまでの身の回りの準備に関する説明

以上のような内容で、約1時間30分の受診時間にご協力をいただいています。

また、看護師は患者さんがスムーズに診察を受けることができるよう配慮し、医師の説明を補足するなど、患者さんやご家族に寄り添ったケアを提供しています。

ご不明な点はどのようなことでも看護師へお尋ねください。

看護部 手術室業務課 五十嵐瑞恵





難病医療費助成制度についてのお知らせ

難病医療費助成制度とは、「指定難病」の診断を受けた方で、一定の要件を満たす方を対象に、「指定難病」に係る医療費の一部を助成する制度です。

※「指定難病」とは、治療法の確立されていない希少な疾患であって長期の療養を必要とするもののうち、国に指定されている338疾病を指します。(2024年2月時点)

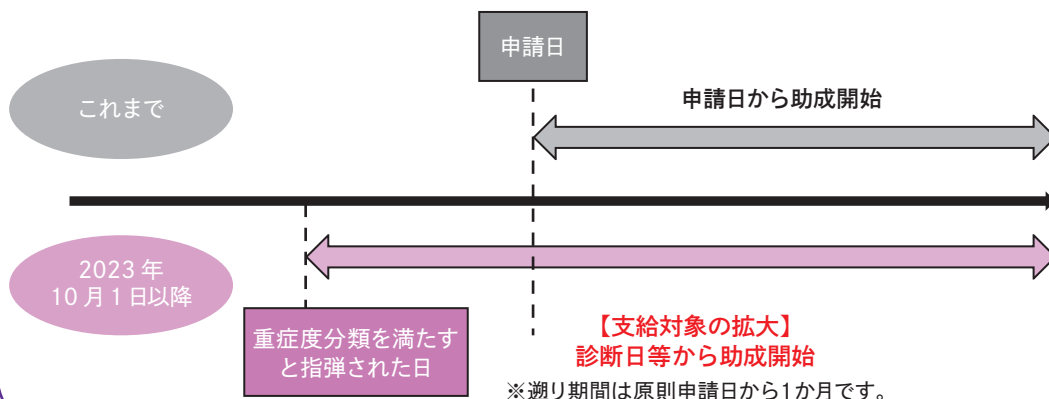
対象疾病は厚生労働省、難病情報センターのホームページで確認できるほか、当院では医療福祉相談室もしくは東京都難病相談・支援センターでも一覧をお渡しできます。

この制度の対象となる方は、指定難病にかかっていると診断を受けた患者さんで、①「重症度分類」を満たしている方(該当の可否は担当医にご相談ください)、②「重症度分類」は満たしていないが、高額な医療費を継続的に支払っている方(条件あり)、です。所得や身体の状態に応じて、1か月の医療費等の自己負担上限額が決定されます。

助成開始時期の前倒しについて

これまでは窓口へ書類を提出した「申請日」から助成が開始されていましたが、2023年10月1日以降は、医師により「重症度分類を満たしていることを診断された日」等まで遡って助成を受けられるようになりました。

遡れる期間は、原則「申請日」から1か月以内の期間ですが、やむをえない理由がある時は最長3か月まで遡ることが認められます。



申請窓口はお住まいの保健所等です。制度の詳細や手続き方法について詳しくお知りになりたい方は、お住まいの申請窓口、または医療福祉相談室、東京都難病相談・支援センターまでお尋ねください。

参考：難病情報センターホームページ <https://www.nanbyou.or.jp/>

右記 QR コードからもアクセスできます。



今日からはじめる

健康講座



4 月号



総合診療科 教授
小林 弘幸

花粉症・インフルエンザ・コロナ対策

ようやく暖かさを感じる季節となりましたが、鼻や喉の不調を感じるようになってきた人も多いのではないのでしょうか。昨今、花粉症に加えてインフルエンザや新型コロナウイルスの流行も重なり、どの症状なのか判別が難しいこともあります。免疫力を十分に高めておくことが大切です。

免疫細胞は非常に複雑な動きをしており、体内に異物が侵入してくると、まずマクロファージが処理し、その情報をヘルパー T 細胞 (Th 細胞) に伝えます。受け取った情報がウイルスの場合はおもに Th1 細胞が活性化します。細菌やダニ・カビ・花粉などのアレルゲンの場合は Th2 細胞がおもに活性化されて、B 細胞が刺激され、それぞれに対応した抗体を作ることで免疫機能が働きます。これらの細胞はバランス良く働くことが重要で、花粉症などで免疫のバランスが崩れると、免疫細胞が過剰に反応することで、くしゃみ、鼻水、かゆみなどの症状を引き起こします。

感染症にも強く、花粉症も起こさないようにするには免疫細胞のバランスを整えることを意識しましょう。免疫は腸内環境と自律神経に大きく左右されるので、まずは食事や睡眠時間を規則正しくすることが大切です。さらに食事では、免疫細胞の材料となるタンパク質、炎症を抑える働きをする良質の油や、免疫の暴走を抑えるビタミン D が多く含まれる魚など、積極的に摂ることをお勧めします。また、腸内細菌を助けるヨーグルトや味噌などの発酵食品、芋やきのこに含まれる食物繊維をしっかり摂ることで、免疫のバランスを良好な状態に保つように心がけましょう。

あなたの
スマホに

どこにいても、 待合室への呼び出し通知

待合室にいらなくても、
診察の順番が近づいたら
プッシュ通知でお知らせ

アプリから
診察の順番状況
を確認



登録はアプリサポートブースへ ブース運営場所…1階 エスカレーター横、1階 薬剤部付近
ブース運営時間…平日 9:00~17:00、土曜 9:00~13:00(第2土曜除く)

マイホスピタルは対面登録式のスマホアプリです。院内設置のアプリサポートブースに登録者ご本人様が診察券原本と本人確認書類をご持参の上、ご登録をお願いします。

本人確認書類

- 1点確認…運転免許証、パスポート(住所記載あり)、在留カード、マイナンバーカード、住民基本台帳カード、身体障害者手帳※、精神障害者手帳※、療育手帳※ (※…顔写真なしの場合は下記の書類と2点確認)
- 2点確認…健康保険被保険者証、介護保険被保険者証、当日の診療明細書、国民年金手帳、母子健康手帳、医療費受給者証 等

※未成年のご登録や本人確認書類の詳細に関しましては、サポートブースへお問い合わせいただくか、マイホスピタルのホームページ「重要なお知らせ」をご確認ください。

お問い合わせ窓口 プラスメディサポートデスク
☎ 0120-120-075 (9:00~18:00 ※年末年始を除く) ✉ support@plus-medi-corp.com



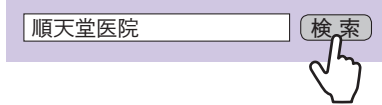
順天堂大学医学部附属
順天堂医院

順天堂大学医学部附属順天堂医院

〒113-8431 文京区本郷3-1-3
TEL: 03-3813-3111 (大代表)

編集 広報管理運営委員会
発行 事務部 管理課 (2024年4月発行)

ホームページ
<https://hosp.juntendo.ac.jp/>



【順天堂医院HP】